

山行報告

山行報告書

京都田辺山友会

報告者：後藤正道

山名	三重・滋賀県境鈴鹿山系・鎌ヶ岳		山行名	3月例会		
ルート	新田辺→R24→R163→伊賀上野→東名阪自動車道・大内 IC→四日市 IC→R477 →湯の山温泉→四ツ谷登山口 四ツ谷登山口→四ツ谷コース→鎌ヶ岳山頂（標高 1,161m）→岳峠→雲母峰コース →カズラ谷分岐→カズラ谷コース→宮妻キャンプ場駐車場へ下山 帰途は、往路ではなく、新名神→京滋バイパス→第二京阪道を利用。 京田辺 6 時 00 分帰着					
山行日	平成 25 年 3 月 20 日（水）	天候	曇りのち雨			
参加者	リーダー：後藤正道 サブリーダー：石橋伸一 男性：10 名 中島貞夫、山口 博、佐坂茂美、金本好彰、樋口 修、園上雅晴、小川弘二、 女性：7 名 広瀬秀憲 合計：17 名 長野雅子、徳田幸子・上杉郁子、上田美織、西村愛子、秋山正子、江平愛子（一般）					
【ルート概略図】 ○宮妻キャンプ場へ下山 ↑雲母峰コース・カズラ谷分岐 ↑○岳峠 ↑▲鎌ヶ岳(1,161m) ↑○三ツ口谷登山口 ○湯の山温泉	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	松井ヶ丘	着	:	鎌ヶ岳山頂	着	13:00
		発	6:00		発	13:15
	四日市 IC	着	8:10	岳峠	着	13:40
		発	8:20		発	:
	湯の山温泉	着	8:40	カズラ谷分岐	着	14:40
発		8:50	発		:	
三ツ口谷登山口	着	9:30	宮妻キャンプ場	着	16:10	
	発	:		発	:	

【山行報告】

京田辺から湯の山温泉までは快調なドライブで到着。天気は曇り。予報では午後から雨であったが大した降雨ではないと思料されたことから決行する。湯の山温泉の R477 号・冬季閉鎖ゲートが当初予定地点より相当手前に設置されておりマイクロバスを下車、登山口まで徒歩で行くこととなった。

R477 を武平峠方面へかなり進んだ地点で長石谷登山口への入口をすでに通りすぎていることが判明。協議の結果、長石谷登山口へはかなり後戻りが必要なため、当初の予定登山ルート「長石谷～長石尾根～鎌ヶ岳」を「三ツ口谷登山口～鎌ヶ岳」の別ルートに変更する。

このルートは、沢の渡渉、砂防堰堤等を繰返しながら沢筋を山頂近くまで詰めるルートで、新芽の芽吹く頃は美しい溪谷美を見せてくれるだろうと思われる。さらに詰めると急な登りになり当初予定の長石尾根ルートと合流した。ここから鎌ヶ岳山頂までは急峻な登りとなる。山頂直下の登りで CL の足疲れから昼食休憩を急遽とる。山頂は広くはないがアルペンチックな雰囲気があり展望は 360 度のパノラマで御在所岳、雨乞岳、綿向山、宮越山、伊勢湾の眺望は最高でした。

すでに昼食も済ましていたため集合写真を撮り、登りとは反対側の岳峠からカズラ谷方面へ下山を開始する。ここからが大変苦慮を余儀なくされた始まりでした。山頂から岳峠までの距離は短いが急な下り道。岳峠は水沢峠と雲母峰ルートの分岐でクマ笹のなかに道標がありルートには安堵。ここから左に折れ雲母峰へのルートに入る。この付近から雨が降り出した。

雲母峰ルートは急な谷川への落ち込み、クマ笹、残雪と歩きにくく分岐らしい場所があるが道標がなく、カズラ谷ルートへの入口確認のため遊軍に先行して頂いて道標確認。雨の中での待機に約 30 分程度の時間ロスが発生したが、カズラ谷ルートの入口確認ができ無事に通過できた。カズラ谷ルート上部は急なザラメ砂の道で歩きにくく、下部は沢筋の道で何度かの渡渉がある眺望が利かないルートであった。

この山は急峻な登り・岩場の山で、体力、技術共に★★の山と考えられる。

ヒヤリハット：①登山口ルートの見落とし。②下山ルート入口の読図不足

感想文

秋山 正子

3月20日春分の日、鎌ヶ岳に行ってまいりました。朝から憂鬱な天気、6時30分になっても太陽が顔を出しません。一日雨が降りませんように、、、。

私と他2名、三山木のコンビニでバスに拾ってもらって、全員17名です。9時ごろバスを降り、歩き出し、45分過ぎたころ、笛の音。みんなで立ち止まり、地図を見ながら検討しています。ずっとアスファルトを歩き続けていたので、いやだなと思っていたのですが、他のかたがたが協議を重ね、山道に入るルートを探し、やっとアスファルトから開放。川沿いを歩いていくと、雪がせり出しています。寒い、さすがに雪も溶けずに残っているんだ。川を何度か渡り、雪渓(多分、あれをそう呼ぶのではないのでしょうか)を踏み抜いたりしながらなんとか尾根に出る。12時30分すぎ、山頂を目前にお昼ご飯です。頂上はせまく、みんなが座れないとの事。しかし、ここも狭いよね。谷底にザックが転げ落ちないように足元に引き寄せながら昼ごはんをいただきます。そのとき、カランコロン、カランコロン、カン、カン、カント、コップェルが谷底へころげていきます。あら〜と見守っていると、岩の陰にいき、見えなくなっていました。山口さんのコップェルでした。山口さんと佐坂さんがのぞきにいきます。しかし、そのまま昼食を食べ始めます。(やっぱり、あきらめたのかなあ、そうだよ。危ないよねえ)ところが、食事を終えると再び、佐坂さん、山口さんそして中嶋さんが覗き込みます。(えっいくのお?)佐坂さんがロープをだし、カラビナで近くの木に固定。中嶋さんが腰にロープを巻きつけ、降りていきます。(え〜、すごい!実践をみられる!)10メートルくらいでしょうか、無事、コップェルを確保、ゆっくりと器具を操作しながら、(私はこの器具を知りません)やっと登ってこられました。ここで、実施訓練が見られてラッキーでした。すごいですね。

帰りの道は山道で、(当然ですが、)岩だらけでした。それが、いつ割れて落ちてても不思議じゃない、岩質にみえました。砂が流され、浮き出した根が歩きにくく、周りのものを両手でつかみながらおりていきます。脚も腕もかなり疲れしました。しかも、ところどころに雪が残っていて、ずる〜と滑り落ちたり雪を踏み抜いたり。ほんとにハードで面白い山歩きでした。ガッツリ雪山はしんどいですが、このくらいならまた行きたいです。CLさん、SLさん、ありがとうございました。

